小学生・作文
国土交通事務次官賞

「土砂災害から身を守ろう」

愛南町立緑小学校　６年　菊池（きくち）　亜美花（あみか）

私が住んでいる緑地域は、山が多く、大雨が降ったり、地震が起きたりした場合には、土砂災害が起こる確立が高いです。実際に私の家は、平地にありますが、すぐそばに大きなため池があります。大きな地震などがあると、その池が決壊する恐れがあると聞いたので、とても怖いです。友達の家は山に囲まれていたり、僧都川の近くだったりしていろいろな危険があります。それで、緑小学校では、土砂災害から身を守るためにこれまでたくさんの学習をしてきました。

まず一つ目の学習は、緑地区に起きた過去の土砂災害について、地域のお年寄りにインタビューをしました。その話の内容は、「家の裏山から小石がぽろぽろと落ちてきて今にも家に流れ込みそうでとても恐ろしかった。」ということでした。その後、町が砂防ブロックとフェンスを張ってくださり、今では大事にならずによかったし、安心したということです。私はこの話を聞いて、「土砂災害が起きたら。」とばかり考えていたけれど、事前に防ぐことが大事なんだ、と感じました。

二つ目の学習は、土砂災害にくわしい方が学校にきていただき、砂防学習会が開かれました。まず、三つの映像を見せてもらいました。少量の小石がポロポロと落ちた後に、急に土砂がものすごい勢いで流れてきて、あの重いはしご車が流されるのを見て、ゾッとしました。それから後の二つも、見ているだけでドキドキするような映像でした。そしてその三つの災害場面にはそれぞれ名前がついていることも学びました。それは、土石流、地すべり、がけくずれです。これを見た時、あの地域の方に聞いた話は、土石流の危険があったんだと思うと、また、ゾッとしました。

三つ目の学習は、今まで自分たちが学んできたことを生かして、総合的な学習の時間に防災マップ作りを行いました。私たちだけではなく、緑地区のもっと多くの人の命を土砂災害から守りたいと思い、マップを作成することにしました。そして私たちから、後はいへと命をつなぎたいと思い、私たちの班のタイトルを「次の世代につなごう防災マップ」としました。内容は、まず再度緑地区の危険か所を探しに行きました。小石が落ちている所、斜面がきつい所、大きい石がむき出しになっている所など、みんなの目でしっかりと確かめて、マップに危険な赤いシールをはりました。その後で、その場所の危険をどうやって防ぐのがいいのか、みんなで考えてメッセージを入れました。まだまだ足りないところはあったと思いますが、少しでも地域の方が危機意識をもってもらえたらうれしいと思い、公民館の玄関にはらせてもらうことにしました。

ほかにも、看板や防災頭巾を作ったり、非常持ち出し袋を点検したりと初めての体験がたくさんありました。もちろん様々な場合を考えた避難訓練も行いました。

私は、このような防災学習をして、災害はいつでも、どんな時でも起こりうるとても怖いものだと実感しました。それなのにこれまで災害のことを何も知らずにいたことに恐ろしさも感じました。土砂災害の前ぶれなどの知識を身に付けるだけで、命を守れることが分かりました。

最近は、異常気象のせいで広島や熊本のように大規模な土砂災害が起こり、本当に多くの人の命がうばわれています。もしもっと早く土砂災害の前ぶれなどに気付いていたら、もっと早く避難できていたらと思うと、私自身ももっともっと勉強しなければならないと思うと同時に、もっと多くの人に身の守り方を知ってほしい、広めていかなければならないと強く思うようになりました。学校に来てくださり、私たちに土砂災害のことを教えてくださった方たちのように、今度は私がそのような活動をする人になって、災害で命を落とす人をなくしたいです。